

和の光

宝塚市立西谷中学校



けじめが大事

朝起きて顔を洗ったら、まず仏前に座って手を合わす。一家そろって手を合わす。たとえ線香の一本でも良い。これで朝のけじめがつく。夜寝る時も同じこと。夜は夜でキッチンとけじめをつけねばなるまい。別に形にとらわれる必要はないけれど、一日のけじめはこんな態度から生まれてくる。何ごとをするにも、けじめが一番大切で、けじめのない暮らしはだらしない。暮らしがだらしないれば働けない。良い知恵も生まれないし、ものも失う。

商売も同じこと。経営も同じこと。けじめをつけない経営は、いつかはどこかで破綻する。景気の良い時はまだ良いが、不景気になればたちまち崩れる。立派な土手も蟻の穴から崩れるように、大きな商売も、ちょっとしたけじめの緩みから崩れる。だから常日頃から、小さい事にもけじめをつけて、キッチンとした心がけを持ちたいもの。そのためには何といっても 躰しつけが大事。平生から、しっかりとした躰を身に付けておかねばならない。自分の身のためにも、世の中に迷惑をかけないためにも。

おたがいに、躰を身に付けて、けじめのある暮らしを営みたい。

松下幸之助「道をひらく」より抜粋

3年生はこれから進路選択の時期になります。2月には私立高校入試、公立高校の推薦・特色選抜が行われます。そして、3月には公立高校の学力検査による選抜が行われます。**どのような進路を選択する場合でも基礎学力をしっかりと身に付けておく必要があります。**そのためにも、各自が授業に臨む姿勢（宿題や課題の提出状況も含む）や家庭での学習習慣を見直し、工夫や改善に取り組んでもらいたいと思います。

また、学習面以外に大切なものとして、**基本的な生活習慣（決まった時間に寝る、決まった時間に起床する、食事をしっかりとる、挨拶ができる、物の整理ができる、時間を守る、服装や頭髪を整える、社会や学校のルールを守るなど）をしっかりと確立させる必要があります。**この基本的な生活習慣が確立できていなければ、学校や家庭で学習にしっかりと臨むことができません。

松下幸之助さんのことばに「何ごとをするにも、けじめが一番大切で、けじめのない暮らしはだらしない。暮らしがだらしないれば働けない。良い知恵も生まれないし、ものも失う。」とあるように、**常日頃から何事に対しても「けじめ」をつけるように心掛けていけば、基礎学力の向上、基本的な生活習慣の確立に繋がるように思います。**さて、みなさんはどのように感じましたか。

校長 筒井 啓介

■西谷中の美味しい給食



当番が協力して給食と食器を運びます



手際よく配膳します



談笑しながら食べます（2年生）



笑顔が美味しさを語っています



談笑しながら食べます（1年生）



談笑しながら食べます（3年生）

4時間目のチャイムが鳴った後、待ちに待った給食の時間です。午前中の授業で頭と身体をフルに使ったらお腹が減ってきます。急いで白衣に着替えて、廊下に整列したら配膳室に向かいます。配膳室には食器、牛乳、ご飯やおかずの入った食缶がクラスごとに置かれています。これを教室まで運びます。



お昼の放送で給食時間の雰囲気づくりをします



教室では、配膳台にご飯やおかずの入った食缶を並べて、手際よく食器に配膳していきます。限られた時間で手際よく配膳するためにみんなで協力・工夫しながら取り組んでいます。配膳が済むと、廊下で待っていた生徒が教室に入り、自分の席に座ります。そして、全員が揃っていることを確認したら代表の生徒が前に出て、いただきますの号令をかけて給食を食べます。みんなとてもお腹がすいていたようで、お代わりをいただく生徒もたくさんいます。クラスごとに班の形で机を並べて談笑しながら食べる姿を見ていると、教室のスピーカーからお昼の放送が流れてきました。この放送は、生徒会執行部の生徒が交代で放送しています。内容はリクエストの曲をかけたり、給食の献立を紹介したりと、工夫をしながら和やかな雰囲気をつくっています。

毎日食べる給食ですが、37人の生徒と教職員が力を合わせて美味しく・楽しく食べることができるように努めています。

（10月6日）



音楽をかけている間に給食を食べます